

●次期「させぼっ子未来プラン」策定に向けた佐世保市の子どもと子育てを取り巻く現状と課題の整理表

資料6

望まれる姿	施策	取組の方向性(取組体系)	課題	現状(検討材料) 【実態ニーズ調査、若者インタビュー、統計データ等】	
子どもを安心して産み、楽しく育て、子どもが豊かに成長できるまち	母子保健の推進	妊娠・出産等に関する知識の普及	○望まない妊娠・出産による虐待のリスクの減少に向けた対応	「子どもの人数」…理想的な子どもの人数について、半数(53.3%)が「3人」と回答しているが、実際(現実的)には「2人」となっている状況	
			○未成年の望まない妊娠による人工妊娠中絶の減少に向けた対応	「子どもの人数」…理想の子ども人数よりも現実的に少ない理由として「経済的な負担が大きい」と回答した人が43.5%と最も高い	
			○市内の乳幼児期から学齢期までにおける一貫した性教育の普及	佐世保市の出生数は2022年時点で1,639人であり、前年比マイナス118人減少し、2012年からの10年間で約700人減少している	
		母子への切れ目ない支援と育児不安の軽減	○学生の頃から妊娠・出産に関する正しい知識を身につけ、将来のライフプランを考えるための啓発活動	佐世保市の婚姻件数は2020年時点で「1,071件」であり、2010年からの10年間でマイナス337件減少	
			○食育の推進による健全な食習慣、子どものアレルギー対策に関する啓発	全国の「平均初婚年齢」…夫31.1歳、妻29.7歳(令和5年)であり、平成17年の夫29.8歳、妻28.0歳と比較すると初婚年齢は上昇	
			○妊娠・出産・育児に関する問題の複雑化や子育て家庭の孤立化	「乳幼児健診などの母子保健サービス」…82.5%の人が「重要」であると回答(前回から約10ポイント上昇)、また約83%の人が「満足」「やや満足」と回答(前回から5.6ポイント上昇)	
		子どもの療育と発達支援	○民間を含めた地域資源を活用した身近な地域での支援体制の構築	「子育てに困ったときの相談窓口」…「重要度」については60.9%の人が「重要」であると回答(前回から約20ポイント上昇)、また約「満足度」についても約64%の人が「満足」「やや満足」と回答(前回から約15ポイント上昇)	
			○産科、小児科医療機関等の関係機関との連携	「児童虐待相談対応件数(新規)」…284件(令和5年度)であり、平成25年度からの10年間で193件増加	
			○児童虐待の未然防止	妊娠・出産期における各種サービスの要望(産後の買い物サービス、おむつやミルク代の補助・施設における授乳室やおむつ替え場所の充実等)	
		地域での子育ての支援	地域における子育て支援の充実	○児童虐待の未然防止	子どもの健康・育成に対する支援の要望(健診回数の増・発達状況の診断機会充実・グレーゾーンの子ども居場所等)
				○乳幼児の不慮の事故の未然防止	「子ども発達センターの診療件数」…13,171件(令和5年度)10年前の平成25年度の件数(9,443件)と比較し、3,728件の増加
				○災害時の妊婦や乳幼児に対する支援	児童発達支援事業所に対する意見・要望(1日に1ヶ所しか行けないため、ある所は40分しか支援を受けられず、その後の預け先がなく支障がある)(相談事業所の存在意義に対する疑問)
地域における子どもの健全育成	○保護者の養育上の問題による子育て短期支援事業のニーズの高まり		子どもの発達支援に関する意見・要望(発達センターの受診も時間がかかる(半日待ちなど)・発達に心配のある子どもに対する支援の場の充実)		
	○ヤングケアラーへの支援		子どもの発達支援に関する意見・要望・発達障害に対して知識を広めてほしい(小学生保護者)・みんなに発達障害について勉強会が各学校であると思う(小学生保護者)・発達障害(グレーゾーン)の子どもたちや不登校の子どもたちに対して、学校の先生たちの理解や支援が低いと感じる(中学生保護者)		
	○療育関係者のスキルの向上		「子ども発達センターの診療件数」…13,171件(令和5年度)10年前の平成25年度の件数(9,443件)と比較し、3,728件の増加		
地域における子どもの健全育成	○医療的ケア児の支援を含めた公平・公正な保育の利用		児童発達支援事業所に対する意見・要望(1日に1ヶ所しか行けないため、ある所は40分しか支援を受けられず、その後の預け先がなく支障がある)(相談事業所の存在意義に対する疑問)		
	○子ども発達センター等の関係機関や事業所間の連携		子どもの発達支援に関する意見・要望(発達センターの受診も時間がかかる(半日待ちなど)・発達に心配のある子どもに対する支援の場の充実)		
	○子ども発達センターの新患の待ち期間の更なる短縮		子どもの発達支援に関する意見・要望・発達障害に対して知識を広めてほしい(小学生保護者)・みんなに発達障害について勉強会が各学校であると思う(小学生保護者)・発達障害(グレーゾーン)の子どもたちや不登校の子どもたちに対して、学校の先生たちの理解や支援が低いと感じる(中学生保護者)		
幼児教育・保育の充実	幼児教育・保育の量の確保と質の向上		○在宅の子どもに対する支援の整理	「地域子育て支援拠点事業」…「利用していない」が約40%であり、このうち約3割は「地域子育て支援拠点事業等がよくわからない」と回答した	
			○ファミリーサポートセンター会員の登録数の増加を図るとともに、利用を促進するための仕組みの構築	「ファミリーサポートセンター」…会員数は令和5年1月末時点で2,638人であり、毎年増加している。活動状況は令和5年1月末時点で合計2,242件であり、このうち買い物等外出の際の子ども預かりが947件で最も多い。	
			○認可外保育施設における保育の質の確保	「させぼっ子食堂ネットワーク」における民間ベースでの活動…11ヶ所(令和5年度)	
	幼児教育・保育における多様な事業・サービスの展開	○児童センターのあり方の整理等を含めた地域における子どもの居場所づくり	「子どもの健全育成のための居場所や遊び場づくり」…「重要度」については81.6%の人が「重要」であると回答(前回から約22ポイント上昇)、また約「満足度」については54%の人が「満足」「やや満足」と回答したが、前回と比較するとマイナス1.8ポイント減少している		
		○児童クラブのニーズ等を踏まえた計画的な整備及び質の確保	「小学校就学後の放課後の過ごし方について」…低学年では、「放課後児童クラブ」が54.9%で最も高く、次いで「自宅」が38.1%であった。高学年では、「自宅」が43.5%で最も高く、次いで「放課後児童クラブ」が41.0%であった。		
		○多様な保育施設・保育形態に対応した研修の実施	「放課後に過ごす場所」…「放課後児童クラブ」と回答した割合が32%で「自宅」に次いで高く、「塾や習い事」と回答した割合が20.2%であった		
	幼児教育・保育の量の確保と質の向上	○多様なニーズに対応するための保育人材の確保	「特に力を入れてほしい子どもに関する取り組み」…小学校保護者において「放課後児童クラブをはじめとした、子どもの居場所の充実」と回答した人の割合40.5%と最も高い		
		○認可外保育施設における保育の質の確保	放課後児童クラブに対する意見・要望(放課後児童クラブに空きがなく、幅も親が多い・利用料が場所によって差があることに対する意見・利用料免除や補助の要望等)		
		○離島・辺地等における保育の維持	子どもの居場所に関する意見・要望(子どもが遊ぶイベントを開催してほしい・気軽に1日中遊べる場所を作ってほしい・放課後や夏休みに地域の子どもたちが集えて、宿題などの自主学習ができる場所の提供などをしてほしい)		
	経済的支援の推進	幼児教育・保育の量の確保と質の向上	○屋内遊び場が少ない・既存施設(メリック)に対する意見(利用料が高い・駐車場が高い・駐車場が狭い)・室内の大きい無料施設がほしい	実態ニーズ調査【自由回答】 小学生保護者アンケート【自由回答】	
			○屋外遊び場(公園)に対する要望 ・0-3才の子供が安全に遊べる施設を作ってほしい。・大型アスレチックが入った公園を作ってほしい。 ・外遊びをさせたいのに、野球禁止、サッカー禁止、花火禁止の公園が多すぎる。周辺に住みたくない広い自由スペースのある公園がほしい。 ・地区によっては小さな公園が廃墟化しており遊べる場所がない。・公園管理不備(トイレ含)に対する意見・要望 ・新しい遊具の広い公園をたくさん作ってほしい。佐世保市の強みである森きらら、海きららはしっかりと関与して維持してほしい。 ・四ヶ所三ヶ所アレーナ内に遊べるスポットを作ってほしい。	実態ニーズ調査【自由回答】 小学生保護者アンケート【自由回答】	
			○多様なニーズに合わせた子育ての不安・課題…48%の人が「子どもの教育費や医療費などの経済的な不安」とあると回答	実態ニーズ調査【問33】	
幼児教育・保育の量の確保と質の向上		○制度利用にあたっての利便性の向上(「こども政策DX」の推進、デジタル技術を活用した手続の簡素化等)	「子どもの医療費や教育費の負担軽減などの経済的な支援」…「重要度」については約94%の人が「重要」であると回答(前回から約6ポイント上昇)、また「満足度」については前回より「不満」「やや不満」の割合が増えている。重要度の平均値は13項目の中でも最も高く、一方で満足度の平均値は13項目の中で下から2番目であり、前回から満足度は低下している。		
		○子育てにあたって感じている不安・課題…「子どもに対する食事の提供」と回答した人が14.3%であり、約7人に1人の割合で不安を感じる保護者が一定数存在している	子どもの医療費に対する意見・要望 ・子どもの医療費を無料にしてほしい。・最低でも中学生までは無料にして欲しい ・無料は無理でも少しは安くしてほしい。・病院変わること1月1600円は高い ・佐世保市は子供の病院代が無料ではない所が不満。以前住んでいた市では完全無料。病院代、処方箋薬局どちらも完全無料だったので引越してきて支払いがある事に驚いた。子どもの人数も多い為かなり経済的負担		
		○子育てにあたって感じている不安・課題…「子どもに対する食事の提供」と回答した人が14.3%であり、約7人に1人の割合で不安を感じる保護者が一定数存在している	その他経済的支援に対する意見・要望 ・習い事などの補助をしてほしい。経済的理由で子どものやりたいことを選ばせられないといけない又はできない ・低所得層への支援はよくされていると感じる。ゼリキのところに自分たちへの支援は全く感じられない。物価が高騰しているからこそ、子育て世帯を対象に一律給付してほしい		
貧困対策		○子育てにあたって感じている不安・課題…「子どもに対する食事の提供」と回答した人が14.3%であり、約7人に1人の割合で不安を感じる保護者が一定数存在している	「経済的な子どもへの影響」…小学生保護者においては「習い事に通わせられなかった」の割合が15.6%と最も高く、中学生保護者においては「お小遣いを渡せなかった」の割合が16.8%と最も高い。また、どちらにおいても「世帯区分2(貧困層)」の値が突出している。		
		○子どもへの食事の提供	「特に力を入れてほしい子どもに関する取り組み」…小学生保護者及び中学生保護者ともに、「ひとり親世帯」「世帯区分2(貧困層)」では、「ひとり親世帯」や「世帯区分2(貧困層)」においては、その割合が高くなっている		
		○子育てにあたって感じている不安・課題…「子どもに対する食事の提供」と回答した人が14.3%であり、約7人に1人の割合で不安を感じる保護者が一定数存在している	「子育てに関する情報提供」…「重要度」については47.2%の人が「重要」であると回答(前回から約10ポイント上昇)、また「満足度」については約60%の人が「満足」「やや満足」と回答(前回から約14ポイント上昇)		
共働き・子育て		○育児休業の取得率の向上	「育児休業の取得状況」…「母親」については56.5%の人が「取得した(取得中である)」と回答し、前回より約20ポイント上昇。「父親」については10.9%の人が「取得した(取得中である)」と回答し、前回より8.7ポイント上昇しているものの依然として取得率は低い状況である		
		○男性の育児参加の推進	「全国の育児休業取得率」…【2022年度】女性:80.2%、男性:17.13%(男性は前年度比3.16ポイント上昇) ※国の目標値→2025年までに50%、2030年までに85%(こども未来戦略より)		
		○仕事と子育ての両立への対応	「子育てにあたって感じている不安・課題」…「子どもに対する食事の提供」と回答した人が14.3%であり、約7人に1人の割合で不安を感じる保護者が一定数存在している		
情報発信	○子育てに関する情報提供…「重要度」については47.2%の人が「重要」であると回答(前回から約10ポイント上昇)、また「満足度」については約60%の人が「満足」「やや満足」と回答(前回から約14ポイント上昇)	「子育てに関する情報提供」…「重要度」については47.2%の人が「重要」であると回答(前回から約10ポイント上昇)、また「満足度」については約60%の人が「満足」「やや満足」と回答(前回から約14ポイント上昇)			
	○状況の変化や市民ニーズに柔軟に対応できる相談窓口体制の構築	佐世保市がどんな支援をしてくれるのかわからない			
	○子ども・若者から意見を聞き、反映させる取組	SNS発信をしていただけると育児の合間に見やすい。最近の若者はネットで検索するよりも先にインスタで検索して情報を取りに行く 佐世保市のホームページは文字ばかりでわかりづらい。自分から情報を取りに行くにしてもページまでの導線が悪い			

佐世保市の今後の課題

●子どもや子育て家庭を支えてきた地域社会における子育て機能の低下を受け、妊娠、出産、子育て等の面で市民ニーズが多様化しています。

●また、児童虐待やヤングケアラーについて、相談や通告等が増加する傾向にあります。

【出典】佐世保市総合計画(後期基本計画)から引用

●身近な地域に相談できる相手がいなかったため、助け合う機会も少なくなっていることから、子育て家庭が孤立し、その負担感が増大しています。

●また、子どもの放課後における生活をめぐっては、核家族化の進展や女性の社会進出等の変化に伴い、その過ごし方が多様化し、居場所について、ニーズの高まりとともに、質の確保も求められています。

【出典】佐世保市総合計画(後期基本計画)から引用

●ライフスタイルや就業形態等が多様化する中、幼児教育・保育へのニーズもきめ細かなものに変化しています。一方、乳幼児期は人格形成の基礎を培う大事な時期であることから、幼児教育・保育において、質の向上が求められています。

【出典】佐世保市総合計画(後期基本計画)から引用

●子どもや子育て家庭においては、経済的な不安定さや子育てや教育にかかる費用負担などから多くの市民が子育てに係る経済的な不安を感じています。

【出典】佐世保市総合計画(後期基本計画)から引用

●男性の育児休業取得率は上昇しているものの、依然として低い状況であり、「共働き・子育て」における仕事と子育ての両立に不安を感じている市民が半数程度存在しています。

●子育てと仕事で両立できる職場環境づくりにおいては、多くの市民が重要であると感じながらも、約半数の市民が不満であると感じています。

●時代の流れを踏まえて、若い世代の方や子育て世帯が必要とする情報について、手軽にたどり着き、わかりやすく知ることができると感じています。

●こども基本法に基づき、こども施策の推進にあたって、こどもや若者の意見を聞き、施策に反映していくことが求められます。

子どもを安心して産み、楽しく育て、子どもが豊かに成長できるまち